

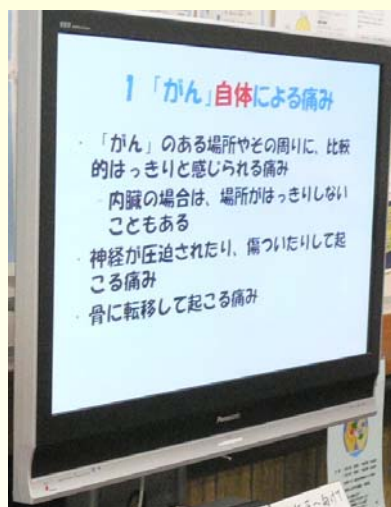


緩和ケアだより

平成20年 11 月 14 日 第 4 号

「がんの痛みの治療教室」 月1回開催中です。

当院緩和ケアチームでは、医療用麻薬に対する誤解を取り除き、がんの痛みに対して少しでもご理解頂けるように、患者さんや一般市民向けの「**がんの痛みの治療教室**」を月1回、外来ホールにて開催しています。治療教室では、当院緩和ケアチームの医師、薬剤師、看護師が、がんの痛みとはどういうものか、痛いときはどうすれば良いのか、医療用麻薬とはどういう薬か、緩和ケアとはどういうものか、等について説明しています。病院スタッフの方もぜひ一度お立ち寄り下さい。また、患者さんやご家族の方に広く周知して頂けるようご協力お願い致します。



デュロテップMTパッチへの切り替えと、ポケットマニュアル改訂のお知らせ

デュロテップパッチが10月1日から**デュロテップMTパッチ**に切り替わり、4規格が使用可能となりました。従来のパッチとMTパッチでは、**パッチに表示されている薬の量(mg)が異なります**のでご注意ください。また、デュロテップパッチは**医療用麻薬**ですので、**くれぐれも切断して使用しないよう**お願いします。パッチ変更に伴い、**疼痛管理ポケットマニュアル**も改訂し、**10月31日に配布**いたしました。ぜひ参考にしてください。

緩和ケアQ&A

Q. 次のフェンタニルパッチ(デュロテップMTパッチ)に関する質問のうち、正しいものはどれでしょう？

- (1) フェンタニルパッチは腎障害のある患者にも使用することができる。
- (2) モルヒネからフェンタニルパッチへオピオイドローテーションすることで便秘が改善する。
- (3) 体温の上昇により、フェンタニルの吸収速度が上がる。

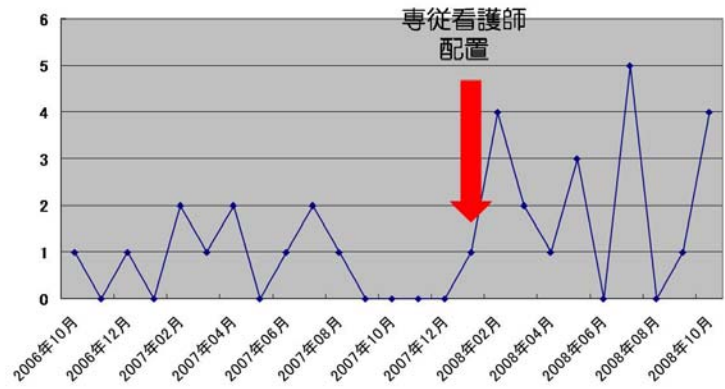
答えはウ
うにありま
す



病棟スタッフからの感想

当院緩和ケアチームでは、18年10月に発足して以来、これまでにたくさんの患者さんたちのサポートをさせていただいております。特に、今年1月に専従看護師が配置されてから依頼件数も増加してきました。今回は、緩和ケアチームに依頼のあった病棟の医師、看護師から答えていただいた、緩和ケアチームに対する感想や意見をご紹介します。

これまでの依頼患者数：33名（男性19名、女性14名）



（医師）

- ・緩和ケアチームの方々と一緒に患者さんを診ることができ、思っていた以上に患者さんが疼痛の症状を我慢している事、専門のチームが診てくれる安心感が患者さんにとってとても重要な事を痛感させられました。初期の段階から上手に疼痛管理を行い、患者さんのADL向上の為、一緒に頑張っていきたいと思います。
- ・重症移植片対宿主病で患者様も心身ともに疲弊していたときに緩和ケアチームに介入していただきました。麻薬系鎮痛剤・制吐剤の使い方から精神的支援まで行っていただき、状態の安定が得られました。

（看護師）

- ・スタッフは緩和ケアを導入する際とても不安です。患者さんに強い不安を与えてしまうのではなど…。声かけやスタッフの関わりなど助言して下さると幸いに思います。
- ・ベッドサイドに足を止めて、ゆっくりと話を聞かなければならない患者さんと分かっているけど、なかなか時間がとれず気になっていました。が、緩和ケアチームの方々に私たちの不足な部分を補っていただき、「これこそチーム医療だ!」と感じています。
- ・疼痛コントロールだけでなく、精神的な面もフォローしてもらい、患者さんも不安の表出ができていますなど感じます。
- ・毎日のように訪室して頂き、病棟スタッフ以上に関わってもらえるので、とても心強く思っています。患者さんのケアだけでなく、私たち看護師の支えとなってくださっています。

これからも皆様からの意見を参考にさせて頂きながら、よりよいサポートを行っていけるようチーム一同頑張っていきたいと思っております。何かお困りのことがありましたら、ぜひご依頼、ご相談下さい。



緩和ケアQ&Aの答え

- (1) ○. フェンタニルやオキシコドンは腎障害のある患者でも使用できます。
- (2) ○. フェンタニルは便秘の原因となる $\mu 2$ 受容体への親和性が低いため、オピオイドの中でも便秘が起りにくいと言われています。
- (3) ○. 皮膚温 40°C 以上で、フェンタニルの吸収率が30%増加すると言われています。

秋田大学医学部附属病院 緩和ケアチーム

TEL: 6223

メールアドレス: kanwa-t@hos.akita-u.ac.jp